

## 森の日記 2023年4月2日から6月18日まで

by 迷鳥キツツキ

4月2日はカエルの卵塊調査がありました。例年最初の調査では卵塊がほとんどみつからないことが多いのですが、カエルの卵塊もエゾサンショウウオの卵塊もたくさん見つかりました。植物ではヤナギの開花が、種類によって進み方はさまざまですが始まっていました。フクジュソウはあちこちで咲き、ザゼンソウもいくつか顔を出していました。フクジュソウの花の中心部での温度を新中学生メンバーが測ってみました。花の中心部の温度は気温よりも7度近くも高く驚きました。



左：遊歩道沿いの池を観察、 右：エゾサンショウウオの卵。

4月9日はカエル調査の2週目が行われました。小学生以下の参加者も多く、賑やかな調査となりました。朝の積雪のためか調査集合地点の気温は3.5℃と、先週よりも低くなっていました。しかし、前日までの高温を反映してカエルの卵塊の数は先週よりもはるかに多くなっていました。各種のヤナギの開花が進み、アズマイチゲも花を付け始めていましたが、寒いためかしとやかに萎んでいました。ザゼンソウの花と葉が先週よりもはるかに多く出ていました。他にはヤツメウナギ、ゲンゴロウモドキなども見る事ができました。



左：昨年までの傾向を説明、 右：調整池付近で。

4月16日は雨のため午前中のゴミ拾いが中止になり、午後のカエル調査のみが行われました。最後の崖登りを避けるためいつもの逆回りコースで調査を行いました。池の水量が増えてカエルの卵が数えにくい状態でしたが、ベテランさんたちはなんとか数えていました。林床ではフクジュソウの花がほぼ終わりに近づき、アズマイチゲがピークになり、エゾエンゴサクが咲き始めました。ウグイスの初鳴きも聞くことができました。



左：遊歩道脇の「池3」で、 右：上流部の「上の池」で。

4月23日の午前中はカエル調査の4週目、午後は今年最初の植物調査が行われました。カエルの卵は先週まででピークを過ぎましたが、新しい卵も数カ所で見かけました。早く産まれた卵はもうオタマジャクシになっていました。第二柏林台川沿いの谷ではエンコウソウの黄色い花が咲き、ニリンソウやオオバナノエンレイソウも咲き始めていました。午後の植物調査では、いつもと異なりコース全体を全員で調べました。各種のヤナギを確認し、各種の早春の花を見ました。エゾヤマザクラも咲いていました。



左：エゾサンショウウオの卵観察中、 右：ニリンソウ。



左：植物調査の集合時、 右：エゾヤマザクラ。

4月29日の午前中はチョウの調査が行われました。例年になく暖かくなってきたので今までで一番早く調査を開始したそうです。チョウはまず観察小屋付近でルリシジミを1頭観察した後、あちこちでモンシロチョウ数頭を観察しました。気温は10時の開始時に12.3℃、調査終了の12時過ぎに17.0℃で、チョウの活動にとってはまだ低かったようです。調査路沿いの桜もあちこちで満開となり、ちょうど良いお花見日和ともなりました。木や草の開花状態も進んでいて目を楽しませてくれました。



左：チョウを追うメンバー、 右：モンシロチョウ。

4月30日は「帯広の森の端から端まで歩く」という企画が行われました。朝9時につつじが丘霊園の駐車場に集合し、そこから帯広川の西岸、もりのやまを経由し、畜大の西の売買川まで歩きました。解散は午後3時30分頃でした。早朝にはまだ雨が降っており、実施できるかどうか危ぶまれましたが、歩き始めてからは雨が止み、薄曇りでしたが、かえって暑くなく歩きやすい天気となりました。途中に見た段丘を深くえぐった帯広川の姿は圧巻でした。いろいろな野の花も見ることができ、楽しい1日となりました。



左：もりのやまで昼食休憩、 右：帯広川の左岸の崖。

5月14日は朝10時からエゾリスの会によるチョウの調査、午後2時から植物調査が行われました。チョウの調査ではエゾスジグロシロチョウ、スジグロシロチョウ、エゾヒメシロチョウ、トラフシジミ、ルリシジミ、モンキチョウなどを見ました。トラフシジミは大変珍しい出現だったそうです。



左：もりのやま付近を調査、 右：トラフシジミ。

午後の植物調査では、私はヤナギなどの多いルートを歩きました。ここでも覚えきれないほど多くの草花に出会いました。フデリンドウがたくさん咲いていました。ベニバナイチヤクソウもちょうど咲き始めたころでした。ミミナグサとオランダミミナグサの区別、コハコベとミドリハコベの区別などを現場で知ることができて良かったです。



左：フデリンドウ、 右：ベニバナイチヤクソウ。

5月21日は朝5時からエゾリスの会の鳥類調査がありました。あいにく天気は曇りから雨でしたが、調査中はなんとか濡れずにすみました。鳥はカラスが圧倒的に多く、脅威を感じるほどでしたが、他にはセンダイムシクイ、エゾムシクイ、アカゲラ、アオジ、アカハラ、ベニマシコ、ヒヨドリ、ヤブサメ、シジュウカラなどがいました。実際姿をはっきりと見ることができたのは、アカゲラ、アオジ、アカハラ、ベニマシコだけで、他はリーダーさんによる鳴き声の判定で確認したものです。



左：鳥類調査出発時の様子、 右：アカハラ。

林床の草花については、ユキザサがほぼ満開となり、クルマバソウやコンロンソウの花も咲いていました。オオバナノエンレイソウは花びらの白さが褪せてきま

した。鳥類調査のあとには里山作りの活動が予定されていましたが、雨のため中止となりました。その後13時から16名の出席を得て年に一度の総会が帯広百年記念館の会議室で行われました。



左：クルマバソウ、 右：総会の様子。

5月28日は朝8時から町内会の公園清掃活動に1時間ほど参加し、その後10時からチョウ類調査に参加しました。エゾリスの会では6時半からエゾリスの個体数調査を行っていましたが、そちらには参加できませんでした。帯広の森ではエゾハルゼミが賑やかに鳴いていました。チョウはウスバシアゲハ、クロヒカゲ、ギンイチモンジセセリ、ツバメシジミなどの初夏のチョウを見ました。植物はササバギンラン、ベニバナイチヤクソウ、コケイラン、スズラン、ハマナスなどが咲き始めていました。



左：栄通りの坂道、 右：ウスアゲハ。

6月11日は朝5時から9時まで鳥の調査を行いました。その後、9時から12時までのチョウの調査には子供たちも含めて多数の会員が参加してくれました。午後は13時から17時まで植物調査が行われました。鳥は現在育雛期なのでなかなか姿を見せてくれませんでした。直接見ることができたのはアカゲラ、カラ類、ベニマシコ、アオジなどでした。チョウの調査で最も多く現れたのはウスバアゲハ、クロヒカゲ、モンキチョウ、ルリシジミなどでしたが、ヒメウラナミジャノメ、シロオビヒメヒカゲなども見ることができました。

植物調査では、班を2つに分け一方の班は個体数調査など綿密な調査を行い、私が参加した班はルート上に出現する草花や樹木の開花・結実状況の調査を行いました。他方の班が個体数調査に時間を取られるので、いつもは他方の班が担当している調査ルートの一部も私たちが調査しました。調査路を何度も歩いているうちに早朝には閉じていたアヤメが2回目以降の調査の際には開いていました。



左：鳥の調査1巡目、 右：アカゲラ。



左：アヤメが咲く調整池脇の草原、 右：フデリンドウの実。

6月18日の午前中は、航空法によって伐採された区域に移植した森の植物の定着状態の調査、抜き取りを続けているオオアワダチソウの個体数や被度の調査、最後にオオアワダチソウ、ヒメジョオン、メマツヨイグサなどの生育が盛んな雑草の抜き取り作業を行いました。快晴ながら風の強い天気でしたが、森の中だったので気になりませんでした。いつものように老若男女多様なメンバーが集まり、楽しく作業を行うことができました。



左：植生定着度の調査、 右：木に登った兄妹会員。

私の個人ホームページ

<http://timetraveler.html.xdomain.jp>

でも活動の様子を報告しています。